

シニアの読書量、「減った」が48.2%に達するも

「文字の読みづらさ」解消に電子書籍が一役

— シニア層の読書に関する調査 —

URL: <http://research.rakuten.co.jp/report/20130830/>

楽天リサーチ株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：森 学）とKobo Inc.（本社：カナダ トロント市、CEO：Michael Serbinis、以下「Kobo社」）は、シニア層の読書に関するインターネット調査を実施しました。今回の調査は、2013年8月9日から10日の2日間、楽天リサーチに登録しているモニター（約230万人）の中から、全国の50歳以上の男女計1,000人を対象に行いました。

■□ 調査結果概要 □■

■ 7割以上が、読書「好き」。読書好きの7割強が月に複数冊以上の読書を

今回の回答者中、読書が「好き」もしくは「どちらかというが好き」と答えた人は75.5%だった。本を読む頻度を読書への興味ごとに分析した結果、読書が「好き」と回答した人の75.2%が、1ヵ月に複数冊以上の本を読むことがわかる。一方、「嫌い」と回答した人は、84.4%が「年に1冊未満／ほとんど読まない」としており、両極端な傾向が見受けられる。

■ 人気のジャンルは「小説」。本選定の情報源は「新聞・雑誌などの広告」

1年に1冊以上本を読む人を対象に、好きな本のジャンルを聞いたところ、トップの回答は「小説」で72.7%だった。本を選ぶ際に参考になっている情報源に関しては「新聞・雑誌などの広告」（34.0%）が多く、「インターネットからの情報」（33.2%）、「書店の店頭ポップ」（32.4%）が続いた。新聞、雑誌といった紙媒体の影響力が現在もシニア層では強いようだ。

■ ここ5~10年で約半数が読書量「減った」。理由は「文字が読みづらくなった」が6割弱

ここ5年から10年間の読書量の変化について、「減った」との回答の合計は48.2%で、「増えた」との回答の合計（14.0%）を大きく上回っている。

読書量が減った理由では、「文字が読みづらくなった（目が弱くなった／老眼になった）」（56.8%）のほか、「携帯電話やパソコンなどで時間がとられるようになった」（31.7%）との回答が多かった。

■ 電子書籍ユーザーは限定的、利用端末は画面が大きい「PC」がトップ。

人気のジャンルは「小説」と「コミック」

電子書籍利用の経験があると答えた人は16.6%で、電子書籍ユーザーはまだまだ少数であることがわかった。電子書籍で読んだことのあるコンテンツのジャンルでは（複数選択）、「小説」（72.9%）、「コミック」（24.1%）、「実用書」（16.9%）だった。

電子書籍を読む際に利用している端末を尋ねると（複数選択）、トップは「PC」で46.4%。以下、「タブレット端末」（31.9%）、「電子書籍専用端末（Kobo、Kindle等）」（24.7%）、「スマートフォン」（22.3%）などとなった。シニア層は、画面が大きく読みやすい端末を選ぶ傾向にあるようだ。

■ 電子書籍のメリットは「文字を自由に拡大・縮小することができる」こと

電子書籍を利用してよかったこと（複数選択）のトップは「文字を自由に拡大・縮小することができる」で55.4%。続く「手軽に何冊もコンテンツを持ち運ぶことができる」が45.8%で、この2回答が突出して多かった。

電子書籍を利用したことがないと答えた回答者に、興味のある電子書籍の特徴を聞くと、上位につけたのは「文字を自由に拡大・縮小することができる」（30.6%）、「手軽に何冊もコンテンツを持ち運ぶことができる」（25.9%）の2回答で、使ってみれば、その良さを享受できるということのようだ。

「電子書籍での読書に興味がない」と回答した人を除き、電子書籍の特徴を踏まえて利用してみたいかどうかを尋ねたところ、「利用を検討する」層の合計が54.3%と過半数を越える結果となった。シニア層の読書量減少の理由として、文字が読みづらくなったことも挙げられることから、自分の見やすい文字サイズに調整できるといった電子書籍の特徴をより周知することで、利用拡大につながるのではないかと。

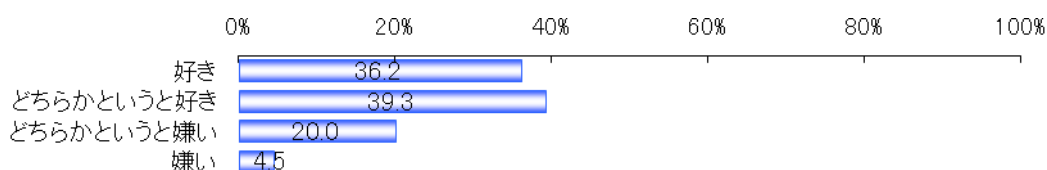
■ □ 調査結果 □ ■

■ 7割以上が、読書「好き」。読書好きの7割強が月に複数冊以上の読書を

今回の回答者のうち、読書が「好き」と答えた人は36.2%、「どちらかという好き」と答えた人は39.3%と、“好き”層が合計75.5%で、「どちらかという嫌い」と「嫌い」の合計の24.5%を大きく上回った。

読書への興味は、読書量にどう影響を与えているのだろうか。紙の書籍、電子書籍を含む本を読む頻度を尋ねたところ、全体で最も多かった答えは「1年に1冊未満／ほとんど読まない」（19.1%）で、以下、「1ヶ月に1冊程度」（17.8%）、「1ヶ月に2冊程度」（15.8%）という回答が続いた。読書への興味ごとに分析したところ、顕著な結果が見られ、読書が「好き」と回答した人の75.2%が、1ヵ月に複数冊以上の本を読むことがわかる。一方、「嫌い」と回答した人は、84.4%が「年に1冊未満／ほとんど読まない」としており、両極端な傾向が見受けられる。

◇読書は好きか嫌いか (n=1,000) 単位：%



◇本（紙・電子媒体を含む）を読む頻度 (n=1,000) 単位：%

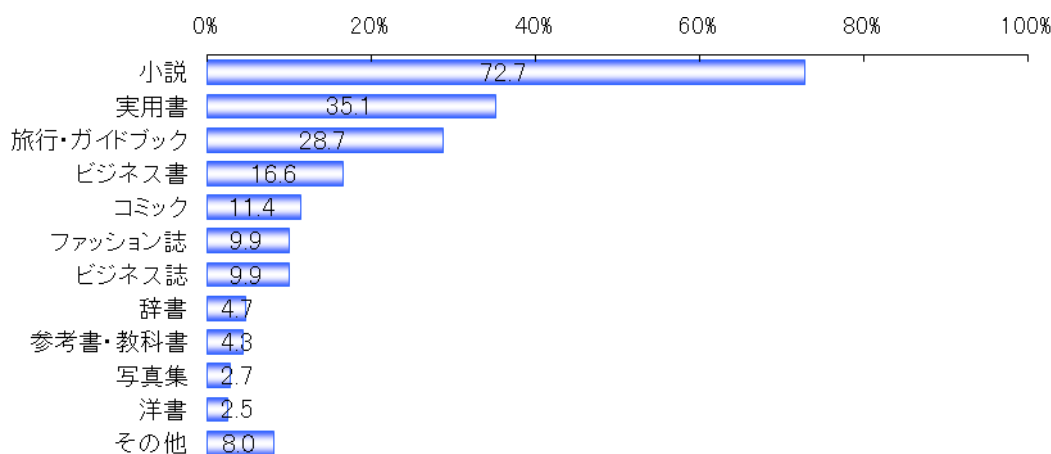
		n	1ヶ月に4冊以上	1ヶ月に3冊程度	1ヶ月に2冊程度	1ヶ月に1冊程度	程度2ヶ月53ヶ月に1冊	度4ヶ月5半年に1冊程度	半年51年に1冊程度	ん1年に1冊未満/ほとんど読まない
全体		1000 100.0	153 15.3	101 10.1	158 15.8	178 17.8	92 9.2	37 3.7	90 9.0	191 19.1
読書への興味	好き	362 100.0	121 33.4	65 18.0	86 23.8	60 16.6	16 4.4	2 0.6	7 1.9	5 1.4
	どちらかという好き	393 100.0	28 7.1	28 7.1	62 15.8	100 25.4	60 15.3	25 6.4	39 9.9	51 13.0
	どちらかという嫌い	200 100.0	4 2.0	6 3.0	10 5.0	18 9.0	15 7.5	10 5.0	40 20.0	97 48.5
	嫌い	45 100.0	0 0.0	2 4.4	0 0.0	0 0.0	1 2.2	0 0.0	4 8.9	38 84.4

■人気のジャンルは「小説」。情報源は「新聞・雑誌などの広告」

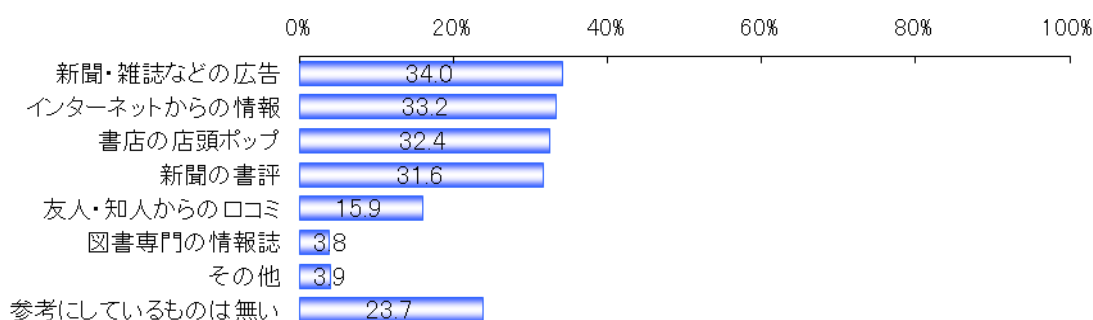
上の質問で、「1年に1冊未満/ほとんど読まない」と回答した人以外に、好きな本のジャンルを聞いた（複数選択）。トップの回答は「小説」で**72.7%**だった。次いで「実用書」（**35.1%**）、「旅行・ガイドブック」（**28.7%**）が2、3位の回答となった。シニア層では依然、小説の人気が高いことがわかる。

次に再び全回答者に、本を選ぶ際に参考にしている情報源（複数選択）を聞いた。トップ3となったのは、「新聞・雑誌などの広告」（**34.0%**）、「インターネットからの情報」（**33.2%**）、「書店の店頭ポップ」（**32.4%**）で、「新聞の書評」（**31.6%**）がそれに続いた。いずれも3割強と拮抗しており、新聞、雑誌といった紙媒体の影響力が現在もシニア層では強いようだ。一方、「参考にしているものは無い」という回答も**23.7%**あった。

◇好きな本のジャンルについて (n=809) 複数選択 単位：%



◇本を選ぶ際に参考としている情報源 (n=1,000) 複数選択 単位：%



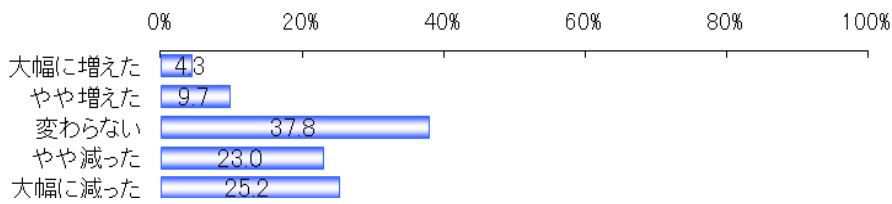
■ここ5~10年で約半数が読書量「減った」。理由は「文字が読みづらくなった」からが6割弱。

さらに、ここ5年から10年の間の読書量の変化について聞いた。最多の答えは「変わらない」(37.8%)だったが、「大幅に減った」(25.2%)、「やや減った」(23.0%)という答えも多かった。「大幅に減った」と「やや減った」の合計は48.2%で、「大幅に増えた」「やや増えた」の合計(14.0%)を大きく上回っている。

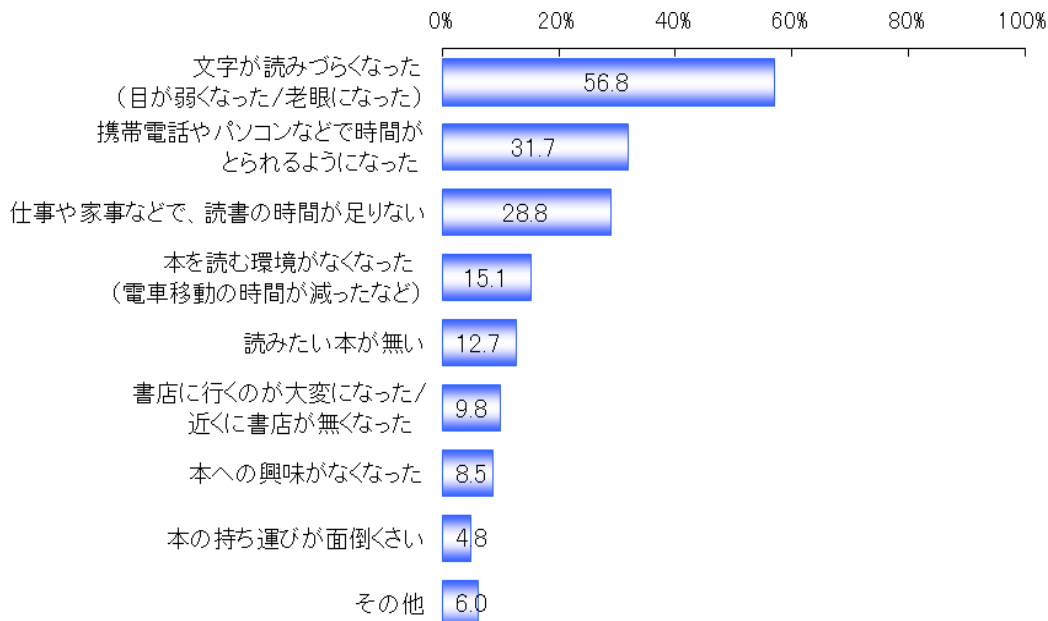
読書量が減った理由(複数選択)で特に多かったのが、「文字が読みづらくなった(目が弱くなった/老眼になった)」(56.8%)。これは、シニアならではの回答と言っていいだろう。また、「携帯電話やパソコンなどで時間がとられるようになった」(31.7%)との回答が続いており、パソコンなどのガジェットを使いこなす「デジタルシニア」が増えていることがわかる。その他、「仕事や家事などで、読書の時間が足りない」(28.8%)がそれに続いている。

一方の読書量が増えた理由(複数選択)も、「これまでよりも時間ができた」(59.3%)と、やはりシニアならではの回答がトップとなっている。以下、「本を入手しやすくなった」(35.0%)、「図書館を利用するようになった」(31.4%)などとなった。電子書籍端末やタブレットの利用により読書量が増えたとする回答は、9.3%だった。

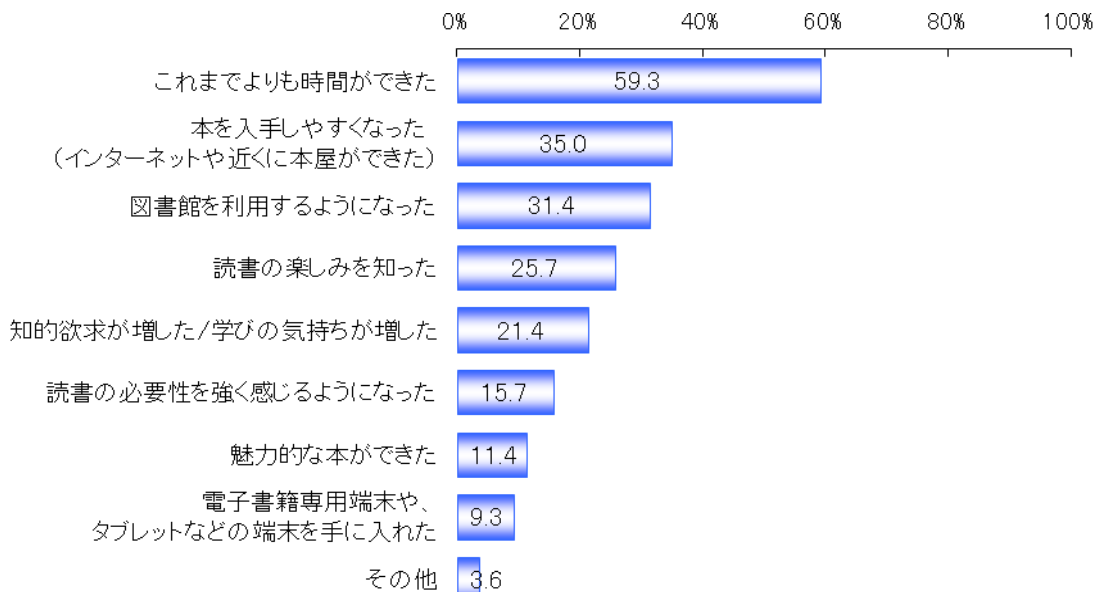
◇ここ5年から10年での読書量の変化 (n=1,000) 単位：%



◇読書量が減った理由 (n=482) 複数選択 単位：%



◇読書量が増えた理由 (n=140) 複数選択 単位：%



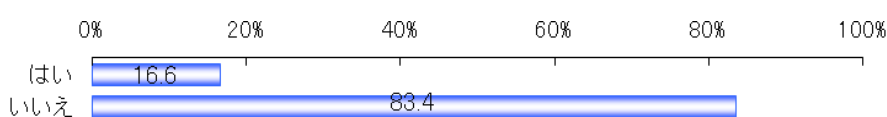
■ 電子書籍ユーザーは限定的、利用端末は画面が大きい「PC」がトップ。
人気のジャンルは「小説」と「コミック」

シニア層は、電子書籍をどの程度利用しているのだろうか。電子書籍での読書について聞いたところ、経験ありと答えた人は16.6%で、電子書籍ユーザーはまだまだ少数派であることがわかった。

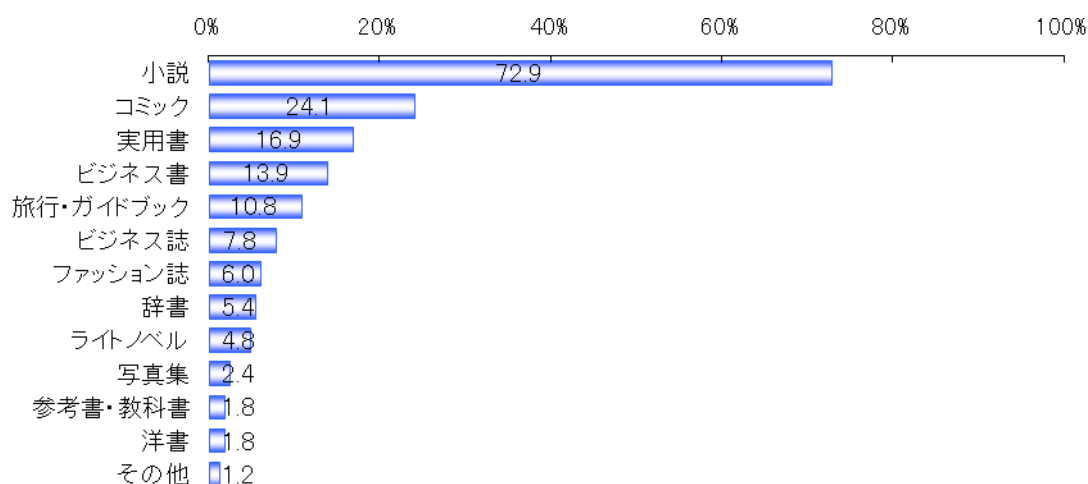
その電子書籍ユーザーに、読んだことのある電子書籍のジャンルを聞いたところ(複数選択)、やはり「小説」が72.9%と突出して多く、「コミック」が24.1%で2位、「実用書」が16.9%で3位となった。「好きな本のジャンル」では5位だったコミックが、ここでは2位につけているのが目を引く。

同じく、電子書籍ユーザーに電子書籍を読む際に利用している端末を尋ねた(複数選択)。トップは意外にも「PC」で46.4%だった。以下、「タブレット端末」(31.9%)、「電子書籍専用端末(Kobo、Kindle等)」(24.7%)、「スマートフォン」(22.3%)などとなった。シニア層は、画面が大きく読みやすい端末を選ぶ傾向にあるようだ。“タブレットや専用端末を使って従来の本のように読む”というスタイルは、シニア層ではまだ定着していないようだが、今後これらの機器の充実や普及により利用の拡大が見込まれる。

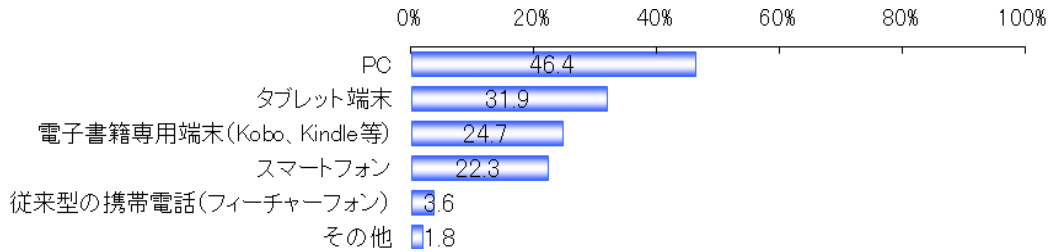
◇ 電子書籍を読んだことはある? (n=1,000) 単位: %



◇ 読んだことのある電子書籍のジャンル (n=166) 複数選択 単位: %



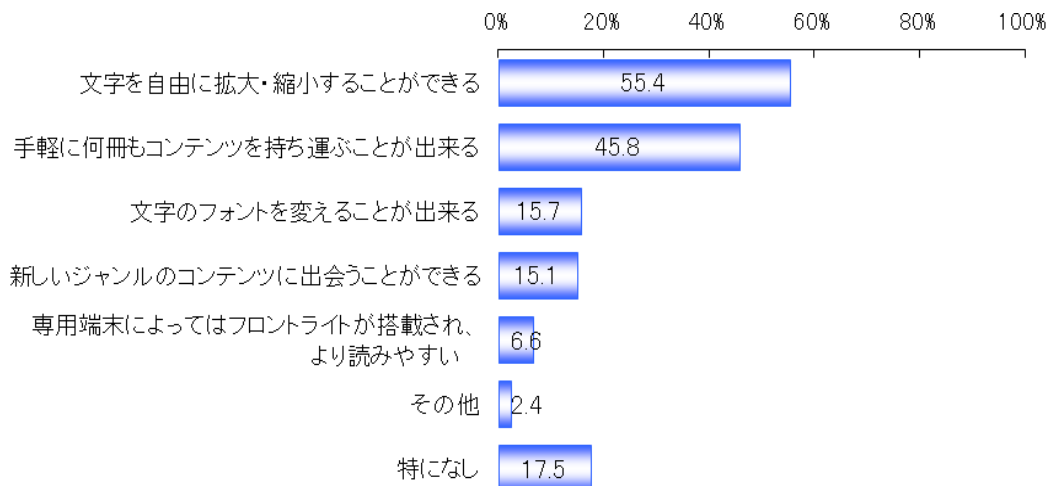
◇電子書籍を読む際に使用している端末 (n=166) 複数選択 単位：%



■電子書籍のメリットは「文字を自由に拡大・縮小することができる」こと

電子書籍ユーザーへ、電子書籍を利用してよかったこと（複数選択）を聞いたところ、トップは「文字を自由に拡大・縮小することができる」で55.4%だった。続く「手軽に何冊もコンテンツを持ち運ぶことができる」が45.8%で、この2回答が突出して多かった。

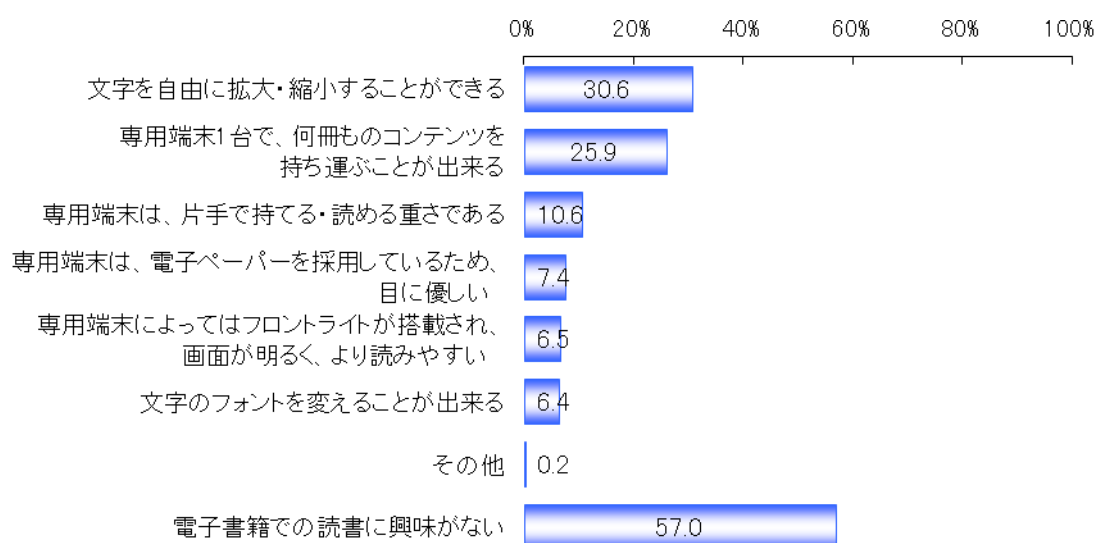
◇電子書籍を利用してよかったこと (n=166) 複数選択 単位：%



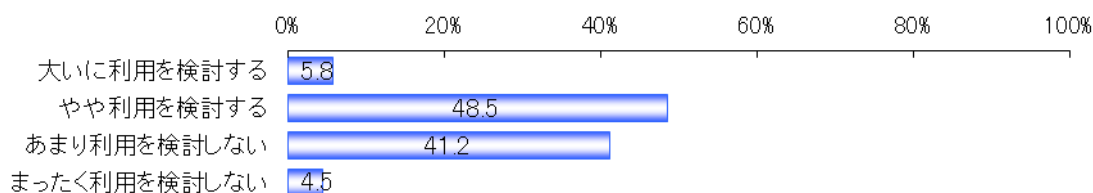
続いて、電子書籍を利用したことがないと答えた回答者に、とくに興味のある電子書籍の特徴を聞いた（複数選択）。やはり上位につけたのは「文字を自由に拡大・縮小することができる」（30.6%）、「手軽に何冊もコンテンツを持ち運ぶことができる」（25.9%）の2回答で、「専用端末は、片手で持てる・読める重さである」（10.6%）がそれに続いた。利用者が感じた良さという回答が上位を占めることから、電子書籍は使ってみれば、その良さを享受できるということのようだ。一方、半数以上（57.0%）が「電子書籍での読書に興味がない」と回答している。読み慣れた紙の本で読みたいという人がシニア層には多いということなのだろう。

「電子書籍での読書に興味がない」と回答した人を除き、これら電子書籍の特徴を踏まえて、電子書籍を利用してみたいかどうかを尋ねたところ、「大いに利用を検討する」「やや利用を検討する」の合計が54.3%と過半数を越える結果となった。シニア層の読書量減少の理由として、文字が読みづらくなったことも挙げられることから、自分の見やすい文字サイズに調整できるといった電子書籍の特徴をより周知することで、普及につながるのではないかと考えられる。

◇特に興味のある電子書籍の特徴（n = 834）複数選択 単位：%



◇今後、電子書籍を利用してみたい？（n = 359） 単位：%



【調査概要】

調査エリア : 全国
 調査対象者 : 50歳以上 男女
 回収サンプル数 : 1,000サンプル
 調査期間 : 2013年8月9日から8月10日
 調査実施機関 : 楽天リサーチ株式会社

以上

【お問い合わせ先】

楽天株式会社 広報部
 TEL : 050-5817-1104 Email : pr@mail.rakuten.com